

令和5 年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	園評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標など)
心身ともに豊かな子	それいいね! 「いいね」がいっぱい	やさしく ～関わる力～ 保育者が笑顔で心地よい挨拶を交わす関わりの中で、子ども達も身近な人に進んで挨拶をしている	保育者は明るい笑顔で挨拶をし親子に対応するよう努めている。外部の方や見学者が来園された時、散歩先では子ども達から元気のよい挨拶ができている。進んで挨拶ができる子が多いが、登園降園時は恥ずかしがる子も見られる為、保育者が笑顔で挨拶をし、園生活の中で自分の思いを保育者や友だちに伝える場を「いいね」と認める関わりを増やしている。	B	B	玄関ホールに職員顔写真と名前も掲示しているが、保護者の中には担任以外職員の名前がわからない方もいる。先生の名前がわかると挨拶を交わし、信頼関係が深まってくると思う。	・子どもが進んで挨拶をすることを習慣化させたり遊びを通して他者と関わる楽しさや心地よさを感じる心のつながりを意識し行っていく
		はつらつ ～学びの芽～ 夢中になれる環境を提供していくことで、子ども達が自分の思いを表現しながら、試行錯誤や工夫している姿を「いいね」と認めて価値付けている	クラス保育者が子どもの興味や関心に合わせた教材や環境を検討をしながら提供ができている。また、保育者が子どもの姿を肯定的に受け止め「いいね」をたくさんキャッチしながら関わるようにしていることで、子ども達からも遊びの中や振り返りの場で友だちに「いいね」「いい考えだね」と認め合う姿が見られている。	A	A	子ども達の興味につながる遊びに先生方が上手に誘導している。遊びの選択枠を広げてくれている。	・「何だろう」「やってみよう」「おもしろそう」等自らが遊びに没頭できる環境作り心掛け、子どもが充実感を得られる様、遊びの過程を見守り自信につなげていく
		たくましい ～生活する力～ 身の回りの事が自分でできる喜びを自信につなげている	自分で身の回りのことをができるように、一人一人の子どもの生活の背景や発達の違いに応じ、保育者がスモールステップで働き掛けることで、子どもが「できた」という達成感を味わえるようになってきた。保育者が時間にゆとりをもって見守る中で、子ども達が「じぶんでやる」という意識が高まっている。	B	A	年齢が上がるごとに当番活動をしたり先生の手伝いをしたりする機会が増え、新しいことが自分でできたことが喜びにつながるように工夫している。	・グランドデザイン基に教育目標や重点目標、教育課程を意識し、各学年の発達を十分に把握したうえで、子どもの見方や対応の仕方を職員が共有し、子どもの育ちを見取り自信につなげていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	園評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標など)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	大きい子から小さい子、得意な子からそうでない子へと遊びが伝承される交流機会を大切に、憧れや思いやりの気持ちを育んでいる	新型コロナウイルスが落ち着いたことで、異年齢交流の場を増やし一緒に散歩に出かけたり、発表会の出し物を見せ合ったりした。園庭では好きな遊びを異年齢で楽しむ中で、生活の仕方や遊び方などを教えてあげる場面が見られ、園の子どもが年上の子が年下の子にやさしく接することができている。	A	A	行事が増え他のクラスとの交流ができて、互いに良い刺激になっている。異年齢と関わって遊ぶ中で上のクラスへの憧れや下の子への優しい関わりが芽生えている。	・異年齢児の意図的な交流の機会を作り、より楽しい関わりが深まるようにしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭環境の違いを踏まえ、一人一人の子どもが、安心して園生活が送れる配慮をしている	保育者は保護者の思いを受け止めながら個々に応じた配慮をしたり、必要に応じて保護者と面談を行なっている。また、参加会を実施し、園での様子を伝えたり保護者とのコミュニケーションを図っている。毎月の職員会議や毎日の打ち合わせで伝達事項や病気・ケガなどを全職員が確認することで、子どもの情報を共有している。	A	A	配慮が必要な子だけではなく一時的に家庭の都合で配慮が必要な子等も把握して対応している。	・健康な生活リズム作りを引き続き整えていくと共に、保護者支援が必要な家庭には、保護者と連携を取りながら進めていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの遊びを見取り、思わず「こうしてみたい」と思える素材の提供や声掛け、再構成がタイミング良く行われるように努めている	環境構成を考える時には始めから全てを設定するのではなく、子ども一人一人の表情やつぶやき、気付きに合わせて、タイミングをみて環境や教材を提供している。子ども達の遊びが広がるよう、遊びを見守りながら「○○だね」「いいね」と子どもがやってみようと思えるような声掛けや再構成をしている。	A	A	子ども達の主体性を大切にし、子ども達が制作する際には傍で見守り、そっとできないところを手伝ってくれていて有難い。	・子ども達の育ちや遊びの様子を職員で共有し適宜環境を構成していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	年間計画に沿った訓練が行われ、自ら考えて危険を回避する力が育つよう指導している。職員間でヒヤリハットに取り組み、分析することで事故防止につなげている	地震、火災、風水害等の様々な状況を想定した訓練を年間計画通りに実施した。避難経路や避難場所等の確認や問題点をどのようにしたらよいか職員間で考える機会となり、子ども達にもその都度、分かりやすく伝える工夫をし防災意識を高めた。また、職員間で毎月一人1枚のヒヤリハットの提出を心掛け、事例を夕方の打ち合わせで報告し、職員間で共有することで意識も高めている。今後もヒヤリハットの提出枚数を増し事前の事故防止に努めていきたい。	B	B	毎月様々な訓練を行っているが、保護者はどんな訓練でどんな学びがあったのか分からないので、訓練の様子を知りたい。	・非常時に適切な対応ができるよう訓練を通し色々な状況をシュミレーションしていく ・ヒヤリハットの内容を夕方の打ち合わせで共有し対応方法を考え、安全教育に心掛けていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い、うがい、咳エチケットを実践し感染予防につなげたり、栽培活動からのクッキングや食育の日を通して「食」について子どもの関心が広がっている	日頃より保育者も子ども達と一緒に手洗いやうがい等を行なう中で、習慣が身に付いてきた。毎月の食育活動を計画的に実践し、お便りやボードで保護者への発信を行った。また、子ども達が育てた野菜を栽培・収穫し、クッキングを楽しむ経験の中で、食べ物に対する関心が高まり、保護者にも伝えることで、食への関心を持てるように工夫した。	B	A	食育のことや手洗いの仕方など園で学んだことを家でも教えてくれる。園で学んだことが身に付いてきていると感じる。	・子ども達が健康に生活するための基本的な生活習慣の取得につながる様、丁寧に積み重ねていく ・子ども達が栽培している季節の野菜やクッキングの様子、毎月の食育の取組を実施し、保護者に発信していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の子どもの発達や個性を把握・理解し、具体的な支援方法を検討し、実践につなげている	一人一人の特性や性格を担当同士で話し合い、子ども理解を深めながら支援の手だてを考えることができている。サポート強化事業などの外部の専門家のアドバイスを保育実践に取り入れている。定期的に支援児の困っていることや手だてについて、支援方法の検討を行い、保護者と職員で共有しながら実践していく。	B	A	きりんの会など支援の必要な子に寄り添った内容を考え、行っていることがすごく良い。	・きりんの会や支援児の会議は年間や月間計画で計画的に実施していく ・毎月の職員会議やケース会議で支援児の育ちを共有し、全職員で共通理解のうえ支援を行っていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	年間計画に沿って分掌担当がリーダーシップを円り取り組むと共に、職員が協力し合って円滑な園運営につなげている	分掌担当で年間計画を立て、会議で期ごとに反省、報告を行ない、各分掌の進捗状況を共有、課題を解決している。引き続き、各分掌が中心となって積極的にコミュニケーションをとりながら、それぞれの活動を進めていく。	B	B	評議員になって分掌担当や様々な研修があることを知った。どんなことが行われているのか保護者は分からないので、研修の内容や成果を公表しても良い。	・今年度の分掌の反省を踏まえ、様々な企画などの発信を早めに行い、準備などの仕事分担を計画的に進める
6 研 修	(1)研修体制の充実	「やりたいを応援する環境づくり」の実現に向け、遊びマップや園庭環境図の作成やエピソード記録の検討、公開保育の事前事後研修の話し合いを通して子ども理解を深めている	各学年の公開保育を実施し、他のクラスの保育を職員間で見合い研修を行なった。事後研修の方法を研修部で再検討したことで、短時間内で自由に発言し合い学びの濃い研修となった。また、遊び改善構想のテーマ、手だての周知が行えるように、研修に参加できない職員にも、研修ボードや研修日より等で共有し、振り返りができた。公開保育の写真ボードを掲示し保護者にも分かりやすく伝えるよう努めた。職員会議では、エピソード記録検討を行うことで他のクラスの活動や子どもの育ちを共有し、子ども理解や自身の保育の学びへとつなげている。	B	A		・遊び改善構想の研修テーマの手立てや取組みを週案の中に記入していく。また、保育の振り返り、課題や改善策を明確にしておく ・園内研修の教材研究を通して各学年や遊びにあった教材の提供を工夫していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	外部講師やボランティアの方から教えていただいたことが職員間で共有され、八幡山の自然を活かした活動や様々な体験が積み重ねられ、好奇心や探求心を育てている	年間計画で予定していた以上に外部講師の協力を得ることができた。一年を通して園周辺の散歩に出かけ八幡山の自然物(木、葉、実など)を取って帰り、ままごと遊びに活用したり、制作の教材として使用し楽しんだ。職員が園内研修や下見に出かけ指導員からの学びや知識を得たことで、職員の自信へとつながり遊びの中に取り入れる姿が見られた。	A	A	外部講師の先生方を招いて行う保育活動を子ども達は楽しんでいるので、良い体験をしていると感じる。	・八幡山の季節の自然に目が向けられるような環境構成や言葉がけを工夫し、様々な体験を通して、一人一人の見えや感動、つぶやきを見逃さないようにしていく。また、興味・関心を広げることが出来るようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	お便りや連絡帳、クラスボードなどで、子ども達の姿や園の取り組みなどをわかりやすく保護者に伝えるよう努めている	幼児は生活や遊びを通して見られた子どものつぶやきや試したり考えたりする過程を保護者に伝えている。また、行事のボードや各お便りを読むことで家庭でも親子で遊びの話や共有するきっかけになっている。乳児は、季節ごとに遊びのボードを掲示したり、毎日の連絡ノートのやり取りや降園時に保護者に子どもの様子を伝えている。	A	B	今年度はお便りやクラスボードが色々改善されている。車が長く止められない為、より良くなっていく事を期待したい。	・園便り、クラス便り、保育の様子を掲示するなど様々な情報を保護者に分かりやすくタイムリーに発信していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育や公開授業に参加したり、散歩や行事見学を通して近隣の小学校や園との交流を大切に実施している	年長児を中心に小黒こども園や森下小学校との交流を企画し実施した。提携園の静岡学園保育園児との交流を園庭で行った。積極的に職員が他園の公開保育や卒園児の小学校の公開授業に参加し、自園の公開保育には他園の保育者に参加してもらうことで意見いただいたり情報交換ができた。	A	A	年長児が近隣園や小学校との交流は、子ども達が進学に向けて気持ちの準備が高まり良い機会になる。	・小学校への接続に向けてどんな交流ができるか検討したり、小学校との連絡を密にとっていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方への子育て支援や様々な方との交流機会を大切に、地域に根ざした園づくりに努めている	おしゃべりサロンを毎月行ない、未就園児と園児との交流を行なっている。また、地域の方が気軽に相談できる場となるよう心掛けた。八幡神社のお祭りや聖ヨゼフの園、いきいき教室で地域の方との交流をしたり、静岡女子高の学生が来園したり、園児が学校を訪れ交流を図ることで地域に根ざした取り組みが広がった。	A	A	普段地域との交流を大切にしていると感じている。「今日～にいたよ!」と子どもが良く話をしてくれる。	・地域の様々な方との交流の機会を大切にしながら地域に根ざした園運営に努めていく ・おしゃべりサロン開催を広く知ってもらえるよう発信を工夫し子育てに関する相談体制をつくっていく